

3

授業や諸活動での志教育の参考事例

小 学 校

単元名

どんぐりを植えよう

小学校 第1学年

生活科

か
か
わ
る

【単元のねらい】

- 地域の森林の観察や植林活動を通して、自然の大切さや自然を守るために自分たちにもできることがあることに気付くことができる。
- 友達や地域の人々と協力して植林活動に取り組むことができる。

[志教育の視点]

- ・地域の方々と共に行う体験活動を通して、人と関わることのよさに気付かせる。
- ・自分たちの活動が、自然を守るために役立っていることに気付かせるとともに、地域のために役に立とうとする気持ちを育む。

は
た
す

〈単元の流れ〉（7時間扱い）

1 地域の自然の豊かさを知る。（1時間）

- ・学校のまわりの観察や校外学習での地域探検等で感じた米川の自然について思ったことや感じたことを発表し合う。
- ・発表をもとに「米川の自然のよさ」についてみんなで考える。

ポイント

●町場の便利さやものの豊かさを認めつつ、米川の自然の豊かさを実感させることで、自然環境の豊かさは、何物にも代えがたい宝物だということに気付かせます。

2 豊かな自然を守るために自分たちができることを考える。（1時間）

- ・自然を守る方法を考え発表し合う。
- ・登米市主催の「市民参加の新たな森林づくり事業」に参加することを知る。
- ・毎年全校で参加している「市民参加の新たな森林づくり事業」で、自分たちができることを考える。

3 「市民参加の新たな森林づくり事業」に参加し、植樹活動に取り組む。（4時間）

- ・友達や地域の方々と協力して、どんぐりの種まきをする。
- ・森林の働きについて話を聞き、自然の大切さに気付く。

ポイント

●他の学年の児童や活動に参加している地域の方々と積極的に交流させ、自分も社会の一員として役立っているということを実感させることが大切です。

4 自分の活動を振り返る。（1時間）

- ・植林活動を体験した感想を発表し合う。
- ・自然を守る活動の大切さに気付く。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・学校周辺の自然観察や校外学習の探検活動などの機会を設定し、自然の豊かさや人と関わることのよさを実感できるように工夫する。
- ・色付いた葉や木の実等の自然の恵みを生かした単元「米川秋コレ2013」につなげ、活動に連続性をもたせる。
- ・本単元では市主催の事業に参加したが、県内に多くの自然保護団体や事業があるので、地域との関わりを深めるためにも連携を図るとよい。

題材名

どろんこ わあい

小学校 第1学年

図画工作科

か
か
わ
る

【題材のねらい】

○土や砂の感触を楽しみ、体全体を使って掘ったり積み上げたりして、造形遊びを楽しむ。

[志教育の視点]

- ・互いのよさや友達と協力することの大切さに気付かせる。
- ・自分の好きなことや興味をもったことに進んで取り組み、自分の思いを表そうとする気持ちを育む。

も
と
め
る

〈学習の流れ〉

1 つくってみたいものを考える。

- ・砂場で、土や砂に触れながら、それらの特徴を生かして何をつくりたいか考える。
- ・つくりたいものに合わせて、用具や材料を選ぶ。

ポイント

●「つくってみたい」という思いが膨らむように用具や材料を十分準備しておくことが必要です。

2 友達と一緒に作る。

- ・土や砂を掘ったり盛り上げたりして作る。
- ・土や砂を丸めたり、型を取ったりして作る。
- ・積み上げたり並べたりして作る。
- ・水を流したり、木や草花をさしたりして作る。
- ・自分がつくったものについて話したり、友達とつくったものを使って遊んだりする。

ポイント

●友達と協力して水を汲んだり流したり、つくり方を教え合ったりするように働きかけることが大切です。

3 後片付けをする。

- ・つくったものを写真に記録し、砂場の後片付けをする。
- ・用具や材料を片付ける。

ポイント

●友達との楽しい活動を振り返らせるとともに互いのよさを認め合わせることが大切です。

4 思いや考えを絵や文にかく。

- ・楽しかったことや工夫したことなどを絵や文でかき、発表し合う。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・互いのよさや友達と協力することの大切さに気づき、自分の思いを表そうとする気持ちを育むために、興味をもって取り組める活動を設定する。

活動名

親子で藍染体験をしよう

小学校 第2学年

創意の時間（2学年PTA行事）

か
か
わ
る

【本時のねらい】

- 藍染の話や藍染体験をすることで、親子や地域の方との交流を深め、他との関わり大切さに気付く。
- 藍染の仕方を知り、体験を楽しむ。

【志教育の視点】

- ・地域の人材を活用することで、地域とのつながりを深める。
- ・地域の文化を見直し、地域に貢献しようとする気持ちを育てる。

〈活動の流れ〉

- 1 藍染された物を実際に見ながら、地域の方から藍染について話を聞く。
 - ・卒業生が地元で藍染をしていることを知り、地域の文化に目を向ける。
- 2 藍染の手順について説明を聞き、染めるまでの準備をする。
 - ・布の端を結んだり、割り箸や輪ゴムを使って布を固定したりしながら、自分自身で染めたい模様を考える。
- 3 藍染を体験する。
 - ・染物の変色、染色液と染め終わった色が違うことに気付く。
- 4 活動を振り返る。
 - ・染め終わった作品をお互いに鑑賞し合い、染め上がった模様のすばらしさについてお互いに感想を述べ合う。
 - ・地域の方や保護者からの感想を聞く。
 - ・地域の方への御礼の手紙を書く。

ポイント

●地域で活躍している卒業生のお話を聞くことで、地域の歴史や文化、伝統芸能等に触れ、地域との関わりについて関心をもたせましょう。

ポイント

●お互いの作品を見合い、感想を述べ合うことで、やりがいや達成感を味わうようにします。また、感謝の気持ちを手紙に書くことで、地域の人との交流に関心をもたせるようにします。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・地域の方との交流や感謝の気持ちを伝える活動を通して、地域を見直す機会となるよう関わる場を設定したり活動内容を工夫したりする。

単元名

働く人とわたしたちの暮らし

小学校 第3学年

社会科

か
か
わ
る

も
と
め
る

【本単元のねらい】

○地域で働く人々の仕事の様子や工夫を調べ、それらとわたしたちの暮らしとの関わりについて知ることができる。

【志教育の視点】

・地域で働く人々と自分たちの暮らしの関わりについて知ることにより、それぞれの仕事の人々の役に立つことに気付かせ、働くことへの興味・関心を高める。

〈単元の流れ〉（27時間扱い）

1 店で働く人について調べる。（12時間）

・地域のスーパーマーケットを訪問し、お店の人の仕事の内容や工夫していること等についてインタビューする。

2 農家の仕事について調べる。（11時間）

・身近な地域で作られている作物を調べる。
・作物を作っている地域の農家を訪問し、農家の仕事の内容や工夫していること等についてインタビューする。

3 身近なところで作る仕事や売る仕事をしている人を調べ、仕事マップを作る。（2時間）

・仕事の内容と工夫について各自インタビューをし、調べた内容をカードにまとめる。
・地域の白地図にカードを貼り、仕事マップを作る。

4 仕事マップを見ながら気付いたことについて話し合う。（1時間）

5 学習のまとめをする。（1時間）

ポイント

●仕事内容と地域や自分とのつながりに気付かせることが大切です。

●働く人々の思いを知ることにより、働くことへの興味関心を高めることが大切です。

ポイント

●地域には様々な仕事をしている人がおり、その人たちが工夫しながら仕事をすることによって、人々の生活が成り立っていることに気付かせることが大切です。

夢や志をはぐくむ手立て

・地域の人へのインタビューとマップ作りを通して、地域にある様々な仕事を知ると共に、働くことが地域や人々の役に立っていることを学び、将来の仕事を考えるきっかけとする。

単元名

かわってきた人々のくらし

小学校 第3学年

社会科

か
か
わ
る

【本単元のねらい】

○地域の人々の生活の移り変わりや先人の願いを理解することができる。

も
と
め
る

【志教育の視点】

・昔と今の暮らしや道具の移り変わりを知ることで、人々の知恵や努力で暮らしが便利になったことに気付かせる。

〈単元の流れ〉（9時間扱い）

- 1 身の回りにある古い道具探しをする。（1時間）
 - ・各家庭や近所の人の協力をもらいながら、道具を探す。
 - ・ランプ、洗濯板、たらい、昔のアイロンなど。
- 2 古い道具の使い方を知る。（2時間）
 - ・道具の持ち主や地域のお年寄りに道具の使い方を聞く。
 - ・それぞれの道具について分かったことや疑問をカードに記録する。
 - ・実際に使ってみる。
- 3 民俗歴史資料館を見学し、昔の暮らしを調べる。（3時間）
 - ・見学して分かったことをメモにしてまとめる。
- 4 これまで調べたことをもとに道具年表を作る。（2時間）
 - ・メモを基に年表を作る。
 - ・道具年表から気付いたことを話し合う。
- 5 今の生活をつくり、支えてきた先人の苦労や努力を振り返る。（1時間）

ポイント

●それぞれの道具を使っていた時の様子や、使わなくなってからの生活の変化について話を聞かせましょう。

ポイント

●暮らしをよくしようとする願いや、先人の努力があって道具が変わってきたことに気付かせましょう。

夢や志をはぐくむ手立て

・実物に触れさせたり写真を掲示したりして、道具の移り変わりに関心をもたせるとともに、地域の方の話を聞きながら、先人の苦労や努力にも関心をもたせる。

単元名
わたしたちの町の行事をしょうかいしよう

小学校 第3学年
国語科

か
か
わ
る

【本単元のねらい】

- 身近な地域の行事について調べ、分かりやすく説明することができる。
- 自分が調べたことと比べながら聞くことができる。

も
と
め
る

【志教育の視点】

- ・地域の行事について調べ、その由来や意義、それを行っている人々の思いを知り、地域の行事を大切にしようとする気持ちをもたせる。

〈単元の流れ〉（12時間扱い）

1 町で行われている行事を探す。（2時間）

- ・家の人に聞いたり、役所のホームページなどで探したりする。

2 行事を選んで調べよう。（4時間）

- ・グループで話し合い、調べたい行事を決める。
- ・調べる内容、方法などを決める。
- ・資料を集めたり、インタビューをして行事について調べる。

ポイント

●グループ全員で話し合い、互いの意見を尊重しながら決めるプロセスを大切にしましょう。また、地域の行事への思いをインタビューしながら、地域に関わろうとする意欲をもたせるのが大切です。

3 調べたことを整理して、発表することを決める。（3時間）

- ・発表内容、使う資料、役割分担などを話し合って決める。

4 発表原稿を書いて発表の練習をする。（1時間）

- ・分担に沿って原稿を書き、グループで発表の練習をする。

ポイント

●地域の行事作りに関わってきた人々の思いに触れ、地域の行事を守っていくことの大切さに気付かせた上で、地域への誇りをもち、伝統を守る意欲につなげるように促します。

5 発表会を開く。（1時間）

- ・自分が調べたことと友達の発表を比べながら聞く。

6 地域の行事を調べて気付いたことを話し合う。（1時間）

夢や志をはぐくむ手立て

- ・地域の人々から直接話を聞くことで、地域の行事の意義や伝統を受け継いできた人々の思いに触れさせ、地域に誇りをもち、地域の行事を守っていこうとする気持ちをもたせる。

単元名 「福祉（手を取りあって）」
～互いのよさを見つけ、自分の未来を考えよう～

小学校 第4学年
総合的な学習の時間

か
か
わ
る

【単元のねらい】

- 福祉体験をし、福祉について調べることで、障害と向き合う人の生き方について考える。
- 支援学校との交流を通し、自分のこれまでの生き方や考え方を見つめ直す。

【志教育の視点】

- ・福祉体験活動や調べ学習、支援学校との交流を通して、自分のためだけでなく周りの人のためにできることを考えさせる。

〈単元の流れ〉（33時間扱い）

1 福祉体験活動（10時間）

- ① 盲導犬訓練センターの見学（遠足とタイアップ）
 - ・訓練センターの施設を見学し、盲導犬の育成や訓練について体験的に学ぶ。
- ② 福祉体験活動（「学年PTA行事」とタイアップ）
 - ・町社会福祉協議会の協力のもとに「車いす体験」、「白杖体験」、「手話の学習」を行う。

ポイント

●遠足やPTA行事とのタイアップ、町の団体との活動など年度始めから計画的に関係機関との調整を行うとよいでしょう。

2 学習課題の追求（15時間）

- ① 学習課題を追求する。
 - ・自分で設定した「福祉に関する課題」について取材活動や調べ活動を行う。
- ② 展示発表会をする。
 - ・壁新聞にまとめて互いに見合い、よい点を評価し合う。

ポイント

●授業外（夏休み等）の取材や図書館の活用、自宅のインターネット検索などでの調べ学習も可能です。調べる時間を十分にとれるよう学習方法を工夫することが大切です。

3 支援学校との交流（6時間）

- ① 交流会の計画・準備（一緒に楽しめるものを企画）
- ② 支援学校を訪問して交流会を行う。
 - ・歌・ゲーム・ダンス・4年生からの発表（合唱・リコーダー）・プレゼント交換など

ポイント

●支援学校との交流に限らず、地域によって様々な施設との交流を考えてみましょう。

4 まとめ（学習を振り返る）（2時間）

- ・資料の整理と自己評価、友達と評価の交流をする。
- ・今までの活動を振り返り、周りの人のために自分にはどんなことができるか考えてワークシートにまとめる。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・他者の個性等を理解するとともに、みんなが自分らしく生き生きと幸せに過ごせる社会を思い描き、自分にできる周りの人の役に立つことについて考える場を設定する。

題材名

大切にしよう 心と言葉
(ふわふわ言葉・チクチク言葉)

小学校 第4学年

学級活動(低学年も実施可能)

か
か
わ
る

【活動のねらい】

○相手を励ます言葉や傷つける言葉について考え、居心地のよい教室をつくるために思いやりの言葉を増やしていこうとする意欲をもつ。

[志教育の視点]

・他者との良い関わりを築くために、言葉の果たす役割に気付かせ、温かい言葉を交わすことによって友達とより良く関わろうとする意欲を高める。

〈活動の流れ〉

1 ふわふわ言葉について考える。

- これまでに友達から言われてうれしかった言葉を想起し、発表する。
 - ・児童から出された言葉を模造紙に書き、心が温かくなる言葉であることから「ふわふわ言葉」と名前を付ける。

2 チクチク言葉について考える。

- 友達から言われて嫌だった言葉、悲しかった言葉を発表する。
 - ・1と同様に模造紙に書き、心が痛む言葉であることから「チクチク言葉」と名前を付ける。

3 言葉のもつ力について考える。

- ・言葉はその場には残らないが、相手の心を温かくする力も、傷つける力もあることを感じるができるようなまとめの話をする。

4 活動を振り返り、自分のめあてをもつ。

- 活動により考えたことを書き、自分のめあてを決め発表する。

ポイント

- 誰から言われたのか、という個人を特定するような発言はしないように呼びかけることが大切です。
- 言われて嫌だった言葉を発表することに抵抗のある児童もいると考えられる場合、事前にアンケートを実施し、発表されなかった言葉を教師から発表するような手立ても有効です。

ポイント

- 本時の活動を事後に生かすためにも、教室内に模造紙を掲示し、チクチク言葉が減ったら模造紙上から消し、ふわふわ言葉を増やしていく意欲を継続させるのが効果的です。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・友達とのより良い関わりをもたせるため、温かい雰囲気の中で活動を展開する。
- ・同じ言葉でも言い方によっては相手を傷付けてしまうことにも気付かせたい。
- ・学習の内容については、学級通信等で積極的に家庭に紹介していく。

単元名

きょう土をひらく
小単元名「角田に広がる用水」

小学校 第4学年

社会科

(先人集「高山善右衛門」活用事例)

【本時のねらい】

○米作りに必要な水を何とかしたいという当時の角田の人々の願いから、用水を作るまでの善右衛門の努力について知る。

【志教育の視点】

・地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心の上に自分たちの生活が成り立っていることに気付かせ、人や社会のために貢献しようとする心情を育てる。

も
と
め
る

〈本時の流れ〉

1 本時の学習課題を知る。

○角田の人々の願いと角田用水を作るまでの善右衛門の努力について考えましょう。

2 善右衛門の生い立ちについて調べ、確認する。

- 善右衛門について調べよう。
- ※先人集・自作資料・偉人集その他の資料を活用。
- ・お父さんも用水を作りたいと願っていたんだ。
- ・お金持ちで大地主のうちに生まれた。
- ・人のために働いた人。
- ・町議会議員や県議会議員だった。 など

3 今までに立てられた角田用水の計画について知る。

- 善右衛門の取組以前には角田用水の計画はなかったのでしょうか。
- ・2つの計画があった。
- ・どちらも膨大なお金が必要だった。
- ・賛成の人もいるけれど反対の人もいるんだな。

4 様々な困難を克服し、角田用水を作ることになったことを知る。

- どうして善右衛門は用水づくりを実現できたのだろう。
(実現に向けて解決した問題はどんなことだろう。)
- ・技術面 (専門家と相談)。
- ・資金面 (米がたくさんとれば返せる計画と財産を差し出す覚悟)。
- ・町の協力 (ため池の問題解決)。
- ・仲間を集める (上水期成同盟)。
- ・反対者の説得 (用水の土地の購入と国県郡への許可は教師側で伝える)。

5 本時の感想を書いて発表し合う。

- 様々な困難を乗り越えて用水工事を実現したことをどう思いますか。
善右衛門の用水づくりへの強い思いやそれを支えているものは何だったのでしょうか。
- ※人々の生活を豊かにしたいという思いを確認する。

ポイント

●当時の角田の人々が水に関してどんなに困っていたのかを資料から確認したり「管内の偉人集」からも紹介したりすると効果的です。

ポイント

●角田用水に関する資料を準備し、そこから分かることについても学べるようにするのが効果的です。

ポイント

●人々の用水づくりへの不安や反発がある中で人々を説得し工事の着工にこぎ着けた善右衛門の生き方や思いについてどう考えたか、という観点を与えて書かせると効果的です。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・先人集以外の資料「大河原教育事務所管内の偉人」等も教師側で準備し、学習に活用できるようにする。
- ・郷土のために力を注ぎ、業績を残した先人の生き方にふれることで、現在の自分たちの生活とのつながりに気付かせたり人や社会の役に立とうとする生き方について考えさせたりする。

単元名

スマイルプロジェクト～保育所編～

小学校 第3・4学年（複式）

総合的な学習の時間

【単元のねらい】

○地域内にある保育所訪問の活動を通して、児童一人一人が学んだことを発表するとともに、幼児との交流の中で自己の成長に喜びを感じることができる。

【志教育の視点】

・幼児との相互交流により年長者であることを意識させ、自分の目標に向かって歩み、責任を果たそうとする態度と、他者からの称賛による社会的立場の理解を深める。

〈取組の概要〉（12時間扱い）

- 1 自分たちから誰かに笑顔を届けることはできないか考える。（2時間）
 - ・人は幸せを感じている時は笑顔になっていることに気づき、自分たちができることは何かを話し合う。
 - ・身近な人たちを対象に、どんな方法で表現するのか見通しをもつ。
- 2 異年齢集団での活動に取り組む。（2時間）
 - ・4年生から低学年へスマイルプロジェクトの内容を説明し、活動への協力を依頼する。
 - ・1年生から4年生の異年齢集団で学芸会の劇の練習（学校行事8時間）に取り組む。
- 3 保育所訪問の計画を立てる。（2時間）
 - ・保育所でお世話になった先生方や在所している子供たちへのメッセージを考える。
 - ・小学校での生活や学習についての説明を考える。
- 4 保育所を訪問する。（4時間）
 - ・保育所の幼児やその保護者、先生方へ劇を発表する。
 - ・小学校の生活や勉強についての紹介や、幼児からの質問に答える。
 - ・幼小それぞれから感謝のメッセージを伝え合う。
- 5 学習の振り返りをする。（2時間）
 - ・活動写真の様子やメッセージから、自分の目標との比較をする。

ポイント

●これまでの様々な人との関わりを想起し、相手の行為から心地よくなった経験を基に考え、話し合いを行います。

ポイント

●複式学級や異年齢集団の上位学年という役割の自覚が、社会集団での自己の在り方を主体的に感じ、よりよい働き掛けを考える機会となります。

ポイント

●過去から現在までの成長への称賛が未来への原動力につながります。「自分の成長した姿を見せられて良かった」という感想もありました。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・自己の成長を感じさせるために、自己目標の設定と振り返り場面の工夫をする。
- ・仲間との社会的な結び付き（絆）を深めるために、発達段階に応じた役割設定や互いのよさを発見できる相互理解の場を設ける。

かかわる

もとめる

はたす

単元名

面積の求め方を考えよう

小学校 第5学年

算 数 科

か
か
わ
る

【本時のねらい】

○既習事項を使って台形の面積の求め方を考えることができる。

【志教育の視点】

・学び合いを通し、友達のよさに気付いたり、友達の考えや自分の考えが深まったりすることを実感させる。

〈学習の流れ〉 配当時間 2時間

1 台形の面積を求めるという課題を把握する。

- ・問題に関する既習事項を確認する。
- ・何を解決していくのかが分かり、全員で課題を共有する。

ポイント

●児童の思いやつぶやきを拾い、課題に結び付けることが大切です。

2 既習事項を生かして、台形の面積の求め方を考える。

- ・長方形や平行四辺形等の面積の求め方を基にしながら、考える。
- ・図や言葉、式に表したり、操作したりしながら考える。
- ・ペアやグループで伝え合ったり、考えを出し合ったりする。

ポイント

●数学的な考え方を育むため、ペア、グループ、全体での話し合いなど、目的に応じた言語活動を適切に取り入れます。図や式と関連付けての話し合いにすることが大切です。

3 解決方法を発表し合い、多様な考えを共有する。

- ・自分の考えを図や式、言葉を使って、みんなに分かりやすく説明する。
- ・共通点や相違点を考えながら友達の考えを聞く。
- ・式のどこが間違っているのかをみんなで考えたり、正しい式に修正したりする活動を行う。
- ・どの考えにも共通していることをみんなで話し合い、自分たちの言葉でまとめる。

ポイント

●共感したり納得したりしながら考えを深めていく児童の姿や表情を見取りながら、適切に指導・支援していくことが大切です。

4 適用問題を解く。

- ・学習したことを使って問題を解く。

夢や志をはぐくむ手立て

・一斉指導での学び合いを大切にし、協同で学習するよさを実感する機会を多く設定する。

題材名

マイタウン石巻
～私たちがつくる未来の石巻～

小学校 第5学年

総合的な学習の時間

(先人集「川村孫兵衛重吉」活用事例)

か
か
わ
る

【本題材のねらい】

- 北上川や海と関わりながら発展してきた石巻の歴史に関心を持ち、先人たちの思いや努力を知り、自分たちのまちに誇りをもつ。
- ・北上川や海と、これからどのように関わりながら自分たちのまちを作っていくかについて課題を設定し、まちづくりの在り方を分かりやすくまとめ、表現する。

も
と
め
る

【志教育の視点】

- ・先人集には、北上川の改修工事に尽力した川村孫兵衛重吉の苦労や努力、功績について分かりやすくまとめられている。更に、「伊達政宗」のページも読ませることにより、政宗と孫兵衛の関係について知ることができる。このことから、先人集を活用することにより自分たちのまちの歴史について理解を深め、郷土愛を育むことができると考える。

は
た
す

〈展開例〉（35時間扱い）

1 ふるさつを見つめよう。（10時間）

- ・石巻の今を見つめる。
- ・震災前まで、石巻はどのように発展し、人々は生活してきたのかを調べる。
- ・これからのまちづくりについて考え、課題を設定する。

ポイント

●社会科副読本『わたしたちの石巻』を、調べ活動のときの一資料として用いて、川村孫兵衛重吉への興味・関心を高めましょう。

2 石巻のよさを紹介しよう。（7時間）

- ・まちづくりを考える上でヒントとなる石巻の発展に関わった人々の功績など、石巻の歴史について詳しく調べる。
- ・石巻の歴史について、地域の方に取材する。

ポイント

●北上川の改修工事に携わった川村孫兵衛重吉について詳しく調べようとする児童のために、『みやぎの先人集』を資料として活用しましょう。

●川村孫兵衛重吉について調べた児童については、「伊達政宗」のページも読ませることにより、政宗との関係についても、捉えさせるとよいでしょう。

3 石巻のまちづくりについて考えよう。（8時間）

- ・まちづくりについて、地域の方に取材したり、まちの様子を調べたりする。
- ・取材や調査活動を通し、自分がイメージするまちづくりをどのようにするか具体的に考え、まとめる。

4 「まちづくりプラン発表会」を開こう。（10時間）

- ・自分が考えたまちづくりプランを、どのように紹介するか考える。
- ・まちづくりプランをまとめる。
- ・まちづくりプランを発表する。
- ・発表会を通し、未来の石巻について意見交換する。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・先人が多くの苦難を乗り越え、地域のために尽くした事実から、よりよい生き方を児童に考えさせるとともに、まちづくりプランを通して地域に貢献しようとする高い志をもたせていく。
- ・まちづくりプランの発表会は、同学年の児童だけではなく、下級生や保護者にも公開し、可能ならば、まちづくりの担当者からアドバイスや講評等をもらい今後の励みにしていく。

単元名

人の生き方を見つめて

小学校 第6学年

総合的な学習の時間

【本単元のねらい】

○白鳥省吾の年表をつくることを通して、省吾の生き方について考える。

【志教育の視点】

・省吾の生き方に触れ、自分自身のより良い生き方を考えさせる。

〈単元の流れ〉（13時間扱い）

1 白鳥省吾記念館の館長さんのお話や記念館を見学して分かったことを発表する。（6時間）

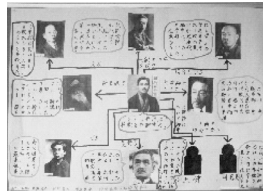
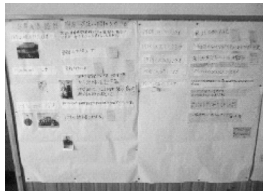
- ・分かったことを短冊に書いて黒板に掲示する。
- ・省吾の生涯を分かりやすくまとめるための方法を考える。
- ・年代が分からないところはさらに調べる。

2 年表にまとめる。（3時間）

- ・年代別に区切り、グループで年表をまとめる。

3 年表を作ってみて、気付いたことや感想を発表する。（2時間）

- ・気付いたことや感想を付箋に書き、年表の該当している欄に貼る。



4 省吾の生き方で心に残ったことや感想を書き発表する。（2時間）

- ・年表作りや友達の気付きや感想を聞いてさらに心に残ったことや感想を書く。
- ・自分のこれからの生き方に生かせそうなことも書く。

ポイント

●情報の収集については、地域の施設を活用したり、詳しい知識をもっている方に取材したりするなど、他者と関わる場面を設定することが大切です。

ポイント

●詩を書くようになったわけや志の高さ、詩人として大成するきっかけとなった出来事などに注目した発表にすると効果的です。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・省吾の生き方を知ることにより、自分たちも高い志をもって生きていこうとする意識を育てる。
- ・先人の生き方についての学習を取り上げるときは、先人の記念館や郷土史家、研究者等の活用が手立てになる。

か
か
わ
る

も
と
め
る

は
た
す

活動名

全校遠足

小学校 第6学年

学校行事等

か
か
わ
る

【活動のねらい】

○縦割り集団の中で異学年の友達と関わりながら、みんなと協力して楽しく活動することができる。

[志教育の視点]

- ・縦割りでの活動を通して、異学年の友達と関わりながら、よりよい人間関係を築こうとする気持ちを育む。
- ・自分の班のために役割や責任を果たそうとする意欲を高める。

は
た
す

〈活動の流れ〉

1 6年生が計画を立てる。

- ・縦割り班毎に効率よく話し合いが進むよう、6年生が事前にしっかりと計画を立てておく。

2 縦割り班毎に話し合いをもつ。

- ・班のめあてを決め、持ち物や一緒に歩く友達を確認する。
- ・班の遊びを考える。

3 全校遠足

- ・上学年は下学年の体力を考慮して、体調や歩調を合わせて歩く。
- ・縦割り班毎に計画した遊びをする。
 - ① 縦割り遊び
 - ② アスレチック広場、ローラー滑り台をローテーションする。
- ・活動した場所を中心にゴミ拾いをする。

4 事後活動

- ・学級で、班の活動や歩いている時の様子等について振り返る（学級での認め合い）。
- ・低学年はお世話になった高学年へお礼の手紙を書く。

ポイント

●上学年にも下学年の時にお世話になったことやうれしかったことを想起させ、どのようにお世話をするかイメージをもたせます。過度なお世話ではなく、ほめる、励ます、認めることの大切さに気付かせます。

ポイント

●会話や声掛けによって、疲れが和らぐことに気付かせます。

ポイント

●手紙を書く活動によって、低学年は感謝の気持ちを持ち、もらった高学年は今後の意欲につなげることができます。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・1年生からの手紙を読ませ、自分の役割を果たせたという達成感を味わわせる。
- ・低学年が長い距離を歩き通したり、楽しく活動したりできたのは、上級生が下級生の気持ちを考えながら工夫して活動したからであることに気付かせる。

単元名

米づくり学習

小学校 高学年

総合的な学習の時間

【本時のねらい】

- 米づくりに関心を持ち、仕事の内容、工夫や苦勞を体験を通して学ぶ。
- 地域の方々との交流を通して、関わりを大切にしようとする意欲をもつ。

【志教育の視点】

- ・働くことの苦勞や喜びを実感するとともに、地域の人々との関わりをもつことで、豊かな人間性や社会性を育み、地域の中での役割を自覚させるとともに、感謝する心と生命を慈しむやさしい心を育成する。

も
と
め
る

〈単元の流れ〉（8時間扱い）

1 米づくりの心を探ろう。（2時間）

- ・米づくりの目的や、米づくりの年間の流れ（タネまきから収穫まで）について、地域の方々からお話をいただく。

※5年生の場合、社会科との関連も図れます。

- ・米づくりの苦勞や工夫、昔ながらの米づくりの方法や新しい技術などを学び、地域の農業を通して、地域の良さを知る。



2 田植え、稲刈り体験（4時間）

- ・地域の方々を講師に迎え、技術・技能を実際に見て、触れて体験する。

（苗の分け方や植え方、植える間隔、鎌の使い方、稲の刈り方、結束の仕方等）



3 お世話になった方々への感謝の会「収穫祭」（2時間）

- ・収穫したもち米で、おもちをつき食事会を開催する。
- ・米づくりについての感想発表会を行う。
- ・感謝をこめて、お礼の手紙を渡す。

ポイント

- 自分が学習したことを「米づくりファイル」に記録しまとめさせることによって、学習成果を確実に自分自身のものにすることができます。
- 地域に対する愛着心を高めさせることができます。

ポイント

- 地域の方々が発表を見に来ることにより、児童は自分の思いを適切に伝えようと工夫します。

は
た
す

夢や志をはぐくむ手立て

- ・学校支援ボランティアとの交流や支援を受けることにより、地域の農業を通して、地域の良さや地域に対する愛着を高める機会を設ける。

4 授業や諸活動での志教育の参考事例 中学校

題材名

夢の実現のために必要なこと

中学校 第1学年

学級活動

か
か
わ
る

【本時のねらい】

○私の夢（目標とする職業）についての関心を高め、実現に向けて何が必要か、何をすべきかを考える。

【志教育の視点】

・自分の進路に対する関心を高めて、夢の実現に向けて何をすべきか考え、自らの力で切り開いていこうとする気持ちをもたせる。

〈活動の流れ〉

1 自分の夢（就きたい職業）を確認する。

- これまでの活動を振り返りながら自分の持つ夢（職業）を確認し、ワークシートに記入する。
- その職業について知っていることを書き出してみる。

ポイント

●夢を志に高めるために、まずは夢の具体を考えさせましょう。ここでは興味のある職業でも構いません。

2 進路選択に必要なことを考える。

- 自分の進路を決めるためにはどんな情報が必要なのかを考える。
 - ① 各個人でそれぞれ付箋紙（7×7cm程度）に記入する。
 - ② グループを作り、それぞれの意見を交流しながら模造紙に付箋を貼り集約していく（KJ法等）。
 - ・模造紙の中央に「私の夢」と書いておく。
 - ・完成形は「私の夢」を中心に「仕事の内容」や「収入」、「学歴」、「資格」などの項がクモの巣状に広がるイメージ。
 - ③ 代表のグループにより、模造紙を掲示・発表する。
 - ・同様の意見を挙手により確認したり他の視点から見た意見を発表したりしながら、さらに交流していく。
 - ・自分にはない意見や気づきは違う色のペンでメモをとる。

ポイント

●集約する際は、互いの意見を尊重し合い、認め合う雰囲気になるように配慮しましょう。

3 今日の活動を振り返る。

- 活動の感想をワークシートに記入し発表する。

ポイント

●夢の実現に向けて何をすべきか、きちんと判断して生活していけるように励ますことが大切です。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・自分が就きたい職業を「私の夢」として具体的に挙げさせる。
- ・漠然としか考えていなかった夢を実現する手立ての具体を交流により見い出させる。

単元名

読む 文学1
「卒業ホームラン」

中学校 第2学年

国語科

か
か
わ
る

【本時のねらい】

- 「家族みんなでホームインしよう。」この一文に込められている徹夫の心情を読み取り、作品の主題をつかむ。

も
と
め
る

【志教育の視点】

- ・徹夫の言動から読み取れる智や家族に対する思いを読み取り、自らの在り方や生き方について主体的に考えさせる。

は
た
す

〈学習の流れ〉

1 「だって、ぼく野球好きだもん。」という智の言葉を聞いた徹夫の心情を考える。

- ・教科書の該当箇所をノートに視写したり、音読したりすることで、智に対する徹夫の思いに注目する。
- ・徹夫についての描写から智に対する思いを確認する。

ポイント

●智の言葉から「自分らしく生きること」「よりよく生きること」について自分の考えがもてるように、教師の働きかけが必要です。

2 「家族みんなでホームインしよう。」という言葉には徹夫のどのような思いが込められているか話し合う。

- ・徹夫の心情の変化をとらえ、徹夫の家族に対する思いについて自分の考えをまとめ、意見交換する（個人、ペア、全体）。
- ・意見交換した後、相手の意見の参考になった点を自分のノートに書く。

ポイント

●「家族」に対する徹夫の思いを知り、自分のこれまでの生活や家族とのかかわりを振り返り、自分のこれからの生き方について意識を新たにさせる支援が大切です。

3 「卒業ホームラン」、 「字のない葉書」の共通点を考え、下記の点に着目して自分の考えを作文にまとめる。

- ・2つの作品を読み比べ、描かれている父親像を捉える。
- ・自分の体験を交えて400字程度で感想を書く。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・題材を通して自らの在り方や生き方について考えさせるために、個人で思考を深める場面と生徒が互いの思いや考えを共有する場面を設定する。

単元名

職場体験学習

中学校 第2学年

総合的な学習の時間

か
か
わ
る

【本時のねらい】

- 職業に対する関心・理解を深め、勤労観・職業観また社会人として必要な礼儀やマナーを身に付ける。
- 勤労体験を通して地元を支える人たちの生き方を学び、自分の将来について考える。

も
と
め
る

【志教育の視点】

- ・自らが育った地域での勤労体験を通して、地域を支える人たちの生き方を学ぶとともに、人と関わることの大切さや学んだことをこれからの生活に生かし、将来について考えさせる。

は
た
す

〈単元の流れ〉（25～37時間扱い）

1 職場体験の意義を考える。（1時間）

- ・関心のある職業を意識させ、職場体験学習の趣旨の理解を深める。
- ・働くことについての疑問を積極的に解決させる。

2 職業講話会（2時間）

- ・働くことの意義等について深める。
- ・関心のある職業を再認識させ、深く知ることの意欲をもたせる。
- ・働くことについての疑問を積極的に解決させる。

3 マナー講習（2時間）

- ・相手を意識した気持ちの良い接し方やマナーについて、地元企業の方から学ぶ機会を設け、仕事をする上での、身だしなみ・表情・態度・姿勢・あいさつ・お辞儀・言葉遣い等について指導を受ける。
- ・立ち居振る舞いを実践し、講習の成果を確かめる。

4 職場体験（18～30時間）

- ・地域の事業所に協力をいただき体験活動を実施する。
- ・保護者に協力依頼し、子供たちが働いている姿を巡回訪問する。

5 報告会の開催（2時間）

- ・職場体験で感じたこと、成果等について一人一人がまとめ、業種毎のグループに分け、プレゼンテーションをする。
- ・お世話になった方々をお招きし、感謝をこめてお礼の手紙を渡す。

ポイント

●多くの人は、第一印象によって相手の性格や人柄まで想像します。第一印象の善し悪しが相手の心を支配し、あなたの印象が職場の印象につながり、「感じがよい」と思っただけの大切さを考えさせることができます。

ポイント

●職場体験学習を振り返り、働くことや生き方に関して自分の考えをまとめていくとともに、友達の考えや学びを知ること、自分の生活に生かす手立てとなります。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・社会体験活動を通して自己理解を深め、社会との相互関係の中で自分らしい生き方を展望し、社会の一員として生活することの大切さや働くことの満足感・充実感を見つめ直し、将来の職業について考える機会を設定する。

単元名

自然環境の調査

中学校 第3学年
理科

【単元のねらい】

○身近な自然環境について調べ、人間の活動などの様々な要因が自然界のつり合いに影響していることを理解するとともに、自然環境を保全しようとすることの重要性を認識する。

【志教育の視点】

・身近な自然環境について調べる活動を通して、地域の自然の保全についての重要性を話し合い、地域の一員として何ができるかを考えるなど、自己の役割と責任を自覚させる。

〈単元の流れ〉（5時間扱い）

- 1 身近な自然環境について話し合う。（1時間）
 - ・身近な自然環境を調べる意義について考える。
 - ・動植物の生態や大気、河川の水質など、身近な自然環境を調査する対象や方法、準備物について話し合う。
- 2 身近な自然環境の調査を行う。（2時間）
 - ・前時に計画した調査を班ごとに行う。
 - ・調査結果を図、表、グラフにまとめる。
- 3 身近な自然環境の調査結果について話し合う。（1時間）
 - ・前時に行った調査結果について、考察を行う。
 - ・前時に行った調査結果と考察を班ごとに発表し合う。
 - ・地域の自然と生物の関係や人間の活動との関係から、地域の自然をよりよい状態にするために、自分たちはどんなことができるか話し合う。
- 4 調査結果と話し合いの内容をレポートにまとめる。（1時間）
 - ・調査結果と前時に行った考察や話し合いの内容を個人もしくはグループでレポートにまとめる。

ポイント

●自分たちの住んでいる地域の自然環境に目を向けさせ、生徒の興味・関心のある調査対象を取り上げることが大切です。

ポイント

●調査活動の結果の考察を通して、地域の自然を守るためには、自分たちには何ができるかを考えさせることが大切です。

はたす

夢や志をはぐくむ手立て

・身近な自然環境を保全するために、自分たちは何ができるかを考えさせる学習を取り入れる。

単元名

日本の伝統音楽に親しもう
～雅楽の楽器と身近な楽器を比較しよう～

中学校 第3学年

音楽科

【本時のねらい】

○雅楽の楽器と身近な楽器を比較し、特徴を理解しながら日本の音楽への関心をもつ。

【志教育の視点】

・日本音楽の特徴を多角的な視点から学習させ、主体的に伝統音楽に取り組ませることで、生涯にわたり日本音楽に親しもうとする心情を育む。

も
と
め
る

〈学習の流れ〉

1 「雅楽」の歴史や分類、特徴等を知る。

・雅楽の歴史や特徴を学習させ、日本古来の音楽の魅力に気付き、関心をもつ。

ポイント

●楽器は国の文化や地域の風土等でのしくみや、演奏方法、音楽性が生まれることに気付かせましょう。

2 楽器の特徴を、地域的な観点から捉える。

・「雅楽」の楽器と「アジア」の楽器との比較を通して、歴史との関連を知り、国の文化や風土等、音楽との関わりを理解する。

ポイント

●身近な楽器との比較で、和楽器をより身近な存在として捉えさせましょう。そして、楽器への理解をより深めさせましょう。

3 「雅楽」を多角的な視点で鑑賞し、感じたことを文章化して伝える。

・身近な楽器との比較を通して、楽器への理解を深め、演奏上の効果について考える。

箏→オーボエ 竈笛→打囃子の横笛

楽箏→俗箏 笙→ハーモニカ

・気付いたことを話し合う。

他の意見を聞き、感じ方に違いがあることを知る。また、感じたことを文章化して伝えるグループ学習を行う。

ポイント

●楽器の特徴から、雅楽全体の構成や響きについての気付きに繋げ、日本音楽への興味を一層高めることが大切です。

4 「雅楽」の演奏を鑑賞させる。

・学習によって得た知識をもとに、多角的に鑑賞させる。

夢や志をはぐくむ手立て

・雅楽の楽器と身近な楽器を比較し、伝統音楽は国の文化や地域の風土等が密接に関わることを感じ取らせる。そのために、実際に日本古来の楽器に触れさせる機会を設定し、その過程で、人々の願いや思いを感じさせていくことが大切である。

単元名 **ユニバーサルデザインを考える**
～すべての人の生活を快適にする商品開発をしよう～

中学校 第3学年
美術科

か
か
わ
る

【単元のねらい】

○使う人の立場を考え、だれもが快適に使えるデザインを考え、制作することができる。

[志教育の視点]

・人々の生活や社会状況に興味をもち、様々な立場の人々の日常生活を手助けするユニバーサルデザインの機能性について理解し、考えを深めさせる。

も
と
め
る

〈単元の流れ〉（6時間扱い）

1 ユニバーサルデザインについて理解する。（1時間）

- ユニバーサルデザインの7原則を理解する。
- 7原則に照らしながら生活の様々な場面や身の周りにあるユニバーサルデザインを見つける。
 - ・個人で調べてワークシートにまとめる。
 - ・グループで話し合う。
 - ・全体で意見交換しながらユニバーサルデザインの機能性や美しさについてまとめる。
 - ・同じデザインでも異なる視点で作られている物、一つのデザインの中に多様な要素が含まれている物があることに気付く。

ポイント

●作り手の心情や意図、工夫に目を向けさせることで、使う側に立ったデザインを追求しようとする意欲を高め、制作への見通しをもたせま

2 ユニバーサルデザインを考える。（4時間）

- アイディアスケッチをする。
 - ・身近な生活場面で使いそうなデザインを考える。
- 商品をPRする企画書を作る。
- 紙粘土でミニチュアを制作する。

ポイント

●互いの気付きを認め合う鑑賞と発表の活動を通して、共感的な人間関係を育てます。

3 プレゼンテーションをする。（1時間）

- 作品を鑑賞し合って、互いの考えやものの見方のよさや違いについて気付いたことを発表する。

夢や志をはぐくむ手立て

・見る人や使う人の立場や気持ちを考えたデザインを工夫させることで、多様な人々の生き方や生活に積極的に関わる態度を育てるとともに、職業や仕事について主体的に考えさせる。

単元名
地域の自主防災会等と連携した防災活動

中学校 全学年・第3学年
総合的な学習の時間

か
か
わ
る

【活動のねらい】

- 地域の安全に貢献する力（共助の態度や力）を身に付ける。
- 地域を大切にするとともに地域の一員としての自覚をもつ。

も
と
め
る

[志教育の視点]

- ・自主防災組織や市危機対策課，消防署と連携を図った防災活動を通して，自らの在り方を主体的に求めさせるとともに，自己の果たすべき役割を自覚させる。

〈活動の流れ〉（5時間扱い）

1 地域防災について栗原市危機対策課から話を聞く。（1時間）

- 内容：「栗原市の自主防災組織」，「栗原市の防災訓練」，「備蓄倉庫」等

ポイント

- 各市町村にある担当課には，事前に活動のねらいや内容を知らせておきましょう。

2 自主防災組織の活動について自主防災会長の話を聞く。（1時間）

- 内容：「3・11震災時の体験談」，「自主防災会長としての苦労話」，「震災時に中学生に望むこと」等

ポイント

- 代表生徒の感想を聞き合うことで，一人一人の意識の共有化を図ります。

3 地域の方々と生徒がともにAED講習や心肺蘇生法講習に臨む。（2時間）

- 内容：①「救命に関わるDVDの視聴」
- ②「心肺蘇生法体験」
- ③「AED体験」等
- ・実技指導は市消防本部の職員に依頼する。
- ・実技演習用人形は40体準備する。
- ・AEDは20台準備する。

ポイント

- 意図的に地域の方々と生徒の混合グループをつくり，自助・共助の態度を育むようにします。
- 生徒には，事前に活動の目的を説明しておくことが大切です。

4 活動の振り返りを行う。（1時間）

- 活動を通して互いに協力し助け合う共助の心の大切さを認識する。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・地域の方々の話を聞く場を設定し，自己の在り方や役割を認識させる。
- ・世代間交流の場を意図的に設定することにより，社会の中で自己の役割を認識させる。

単元名

**地域貢献活動
～地域行事の運営に協力しよう～**

中学校 全学年
総合的な学習の時間
保健体育(※3のみ)

か
か
わ
る

【活動のねらい】

○地域行事への運営に協力することで、地域や伝統、文化への興味関心を高めると共に、地域の良さを知り郷土に貢献しようとする意欲をもつ。

[志教育の視点]

・地域で行われる行事に準備から片付け作業まで関わることにより、地域の中で自分の果たすべき役割や責任を果たそうとする態度を育てる。

は
た
す

〈活動の流れ〉

(阿武隈リバーサイドマラソン大会への運営協力)

- 1 大会の準備内容を検討する(1学年)。
 - ・事務局と打ち合わせして仕事内容を確認し、協力できる内容を検討する。
 - ・会場設営、プログラムの袋詰め、幟旗、案内板設置、駐車場のライン引き等の役割分担を検討する。
- 2 大会の準備の手伝いを部活動ごとに行う(1学年)。
 - ・30名の生徒が体育館アリーナへのマット敷及び会場準備にあたる
 - ・35名の生徒がプログラムの袋詰め作業を行う。
 - ・19名の生徒が幟旗や案内板の設置作業を行う。
 - ・5名の生徒が駐車場のライン引きを手伝う。
- 3 大会に参加する(全学年：保健体育)。
 - ・全校生徒が中学生の部3kmか健康づくり2.2kmに参加する。
 - ・職員も健康づくりコースやマラソンの部などに参加する。
- 4 大会の後片付けをする(全学年)。
 - ・全校生徒で部活動毎に後片付けを行う。行う場所は体育館アリーナ、幟旗の撤去、市総合公園内のごみ拾いをする。
- 5 今回の活動について振り返り、今後何ができるかて考える機会とします。
 - ・地域貢献に対する自分の活動を振り返り地域のためにどのように役に立ったかワークシートにまとめ発表し合う。

ポイント

●一人一人に役割をもたせることにより、責任をもって活動できるように促します。

ポイント

●活動の中で、地域の人々との関わりや自分が果たした役割について振り返り、今後さらに自分のできることや果たすべき役割について考える機会とします。

夢や志をはぐくむ手立て

・地域の中で自分の果たすべき役割や責任を考えさせるために、地域行事に積極的に参加し、地域調査活動や交流活動、貢献活動等の場を設定するなど、各地域に応じた活動を工夫していく。

活動名

笑顔創造プロジェクト&交流会

中学校 全学年

総合的な学習の時間

【活動のねらい】

○地域の方の思いや願いについて情報収集し、それを基に中学生ができる地域貢献活動を考え実践することを通して、地域を笑顔にするとともに、学校から元気を発信する。

【志教育の視点】

・地域の人々との関わりや協同的に活動することを通して、自己を見つめさせ、地域の一員として自分の役割や責任を果たす態度を身に付けさせる。

〈活動の流れ〉（25時間扱い）

1 テーマの設定（4時間）

- 活動の意義から地域の現状に即した活動とテーマを考える。
 - ・同じようなテーマを設定した生徒で縦割班を編制する。
 - ・班ごとにワークショップ形式で話し合い、班のテーマを考える。
 - ・班ごとに地域貢献活動の具体的な内容を考える。

2 活動準備（4時間）

- 地域貢献活動に向けて計画を立て、必要な準備を主体的に行う。
 - ・地域へ出向いて活動に必要な情報を収集する。また、活動をさせていただく施設等と日程の調整や活動内容等に関する打合せを行う。
 - ・活動当日に向けて、制作活動や交流活動の準備、演技（合唱やソーランなど）を披露する場合は、その練習を行う。
 - ・貢献活動を行うことをポスターやチラシにして地域に伝える。

3 活動実践（6時間）

- それぞれの活動場所に出向いて主体的に活動を行う。

4 活動の振り返り（4時間）

- それぞれの活動について振り返り、評価とまとめを行う。

5 小学校と合同発表会（7時間）

- ・保護者や地域の大人を招いて、将来の夢や志に関する事、各校の取組や活動の成果について発表し、交流を深める。
- ・地域の高校生を招いて、なぜ今の進路を選択し、将来の夢の実現に向けて、どのような努力をしているのかを聞く。

6 貢献活動としての地域行事への参加

- 地域からの要請があれば可能な限り参加し、地域に貢献する。

ポイント

●活動のねらいに沿ったテーマと内容になるよう支援することが大切です。プリント類は必ずファイリングをさせていただきます。

ポイント

●地域の方々や生徒が直接関わり、互いの思いや願いが通じ合うよう、情報収集や打合せは生徒が主体的に行うようにすることが大切です。また、清掃活動なども地域貢献活動としてふさわしいことを理解させます。

ポイント

●小学生や卒業生と交流することで、過去、現在、将来の自分をイメージでき、夢と志をもって、その実現に向けて努力していこうとする意欲を喚起することができます。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・地域の中で自分の果たすべき役割や責任を自覚させるために、地域と関わる体験をさせる。
- ・小学生や高校生と交流することで、自己実現に向けて努力しようとする気持ちを育む。

かかわる

もとめる

はたす

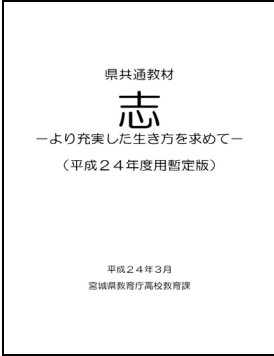
5

授業や諸活動での志教育の参考事例

高等学校



高等学校の主な取組

<p>平成 22年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「みやぎ志教育」プラン作成 ◇ 志教育全体計画作成 ◇ 志教育担当教諭等の位置付け 	
<p>平成 23年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 授業や活動のヒント集1の発行 ◇ 高等学校学習指導資料 各教科編 発行 ◇ 県共通教材 志 -より充実した生き方を求めて- 暫定版 発行 ◇ 推進地区指定 角田高校 利府高校 迫桜高校 ◇ 志教育担当者連絡会議の開催 ◇ 志教育年間指導計画の作成 ◇ 志教育全体計画の見直し 	
<p>平成 24年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 推進地区指定 柴田農林高校 利府高校 古川高校 中新田高校 涌谷高校 小牛田農林高校 迫桜高校 石巻西高校 ◇ 志教育担当者連絡会議(研修含む)の開催 ◇ 志教育年間指導計画の見直し、作成 ◇ 志教育全体計画の見直し、作成 ◇ 高等学校「志教育」推進事業 ◇ みやぎ高校生フォーラムの開催 	
<p>平成 25年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 推進地区指定 柴田農林高校川崎校 亘理高校 中新田高校 築館高校 東松島高校 石巻西高校 登米高校 志津川高校 ◇ 志教育担当者連絡会議(研修含む)の開催 ◇ 志教育年間指導計画の見直し、作成 ◇ 志教育全体計画の見直し、作成 ◇ 高等学校「志教育」推進事業 ◇ みやぎ高校生フォーラムの開催 	

平成25年度高等学校「志教育」推進事業

研究指定校事業

地区指定校

地区単位の小・中・高等学校の連携

【平成25年度指定校】

- ①柴田農林高校川崎校(川崎町全中学校区)＜大河原＞
- ②亶理高校(亶理町全中学校区)＜仙台＞
- ③中新田高校(小野田中学校区)＜北部＞
- ④築館高校(築館中学校区)＜北部栗原＞
- ⑤東松島高校 } (矢本第一中学校区)＜東部＞
- ⑥石巻西高校 }
- ⑦登米高校(登米中学校区)＜東部登米＞
- ⑧志津川高校(志津川中学校区)＜南三陸＞

「学校設定教科・科目」研究推進校

高等学校の教育課程への「志教育の位置付けの研究」

【平成25年度指定校】 ○真山高校

普通科における専門教科導入研究推進校

普通科における専門教科の導入と「志教育」の在り方の研究

【平成25年度指定校】 ○上沼高校

普通科におけるキャリア教育研究推進校

普通科におけるキャリア教育の充実と「志教育」の在り方の研究

【平成25年度指定校】

○黒川高校 ○涌谷高校

研究推進事業

県共通教材の普及

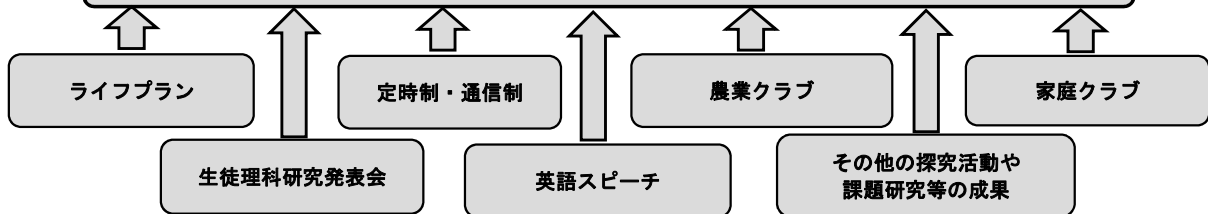
- ・各県立高校の「志教育」の教育活動で使用する、生徒に感動を与える教材の作成と普及

各校指導者会議

- ・各県立高校の担当教員による会議を開催
- ・他県や県内の先進事例等を学ぶ

情報発信事業

みやぎ高校生フォーラム



みやぎマナーアップ運動

マナーアップフォーラムの開催

- ・生徒向け講演会
- ・ワークショップ

マナーアップ運動の周知・広報

- ・ポスター、のぼり

マナーアップ推進校の指定

- ・各校における運動展開

マナーアップキャンペーン

- ・乗車マナーについての意識啓発

魅力ある県立高校づくり支援事業

学校発のプロポーザル事業
各校の特色ある「志」教育の実践を支援
復興を支える、地域に貢献する人材育成

(復興人材育成)

- ・地域復興 ・ボランティア ・防災教育

【指定校】

亶理高校、多賀城高校、黒川高校、
加美農業高校、石巻好文館高校、
本吉響高校、気仙沼海洋高校

(志教育)

- ・学習意識の向上 ・社会人として自立
- ・人間関係の構築 ・豊かな人間性
- ・実社会を意識

【指定校14校】

村田高校、柴田農林川崎校、角田高校、
名取高校、仙台二華高校、仙台第二高校
松島高校、岩出山高校、涌谷高校、
登米高校、米谷工業高校、石巻西高校、
志津川高校、田尻さくら高校

みやぎ高校生地域貢献推進事業

みやぎ高校生フォーラムにおける
地域貢献推進校の発表
他県高校生との交流会の開催
ボランティアリーダー養成研修会

- ・生徒向け講演会
- ・被災地ボランティア体験



平成25年度 魅力ある県立高校づくり支援事業 指定校事業概要

(1) 「復興を担う人材育成」に関する取組

	学校名	テーマと内容
1	亘理	【ボランティア精神及び実践力の涵養】講演会、ボランティア活動（仮設住宅居住者との交流、地域の支援学校、福祉施設・幼稚園との交流、地域の交通安全推進活動、清掃活動）の実施
2	多賀城	【自らの命を守り、震災の経験を語り継ぐ】通学防災マップの作成、波高マップの作成、波高標識の設置等を通じた防災意識の高揚と全国への発信による震災での教訓の継承活動
3	黒川	【地域コミュニティの担い手育成】系統的なボランティア活動（地域小学生への学習支援活動、被災地のサクラ再生、特養老人ホームでの出前茶会）、インターンシップや社会人講話の実施
4	加美農業	【農業を通しての絆づくり】被災者（仮設住宅等居住者）を対象とした開放講座を開講。生徒が支援者となり、復興支援農園での野菜の栽培、草花の栽培を実施
5	石巻好文館	【「甲斐ある人」の育成】「甲斐ある人」（＝真心を持って世のため人のために尽くす人）を目指した、石巻一斉ボランティア体験活動、在り方生き方研究ワークショップなどの活動
6	本吉響	【被災地を担う未来の大人の育成】「被災地商店街を応援するプロジェクト」の立ち上げ、地場産品を東京の高校の文化祭で販売。地元食材を使った弁当の商品化等による地域の活性化
7	気仙沼向洋	【よりよい生き方を主体的に探求させる志教育の推進】仮設校舎で生活する生徒が、地域清掃活動、地域防災研修会、「地域の方に感謝の思いを伝える実践報告会」を実施

(2) 「志教育」に関する取組

	学校名	テーマと内容
1	村田	【ライフプランを通して社会人としての自立を目指す】志育成講座により生徒のライフプラン構築、発表会の実施。進路講座や地域貢献活動（町内清掃・ポスター作成等）の実施
2	柴田農林川崎	【普通科キャリア教育】朝読書及び学び直し教材による基礎学力向上とインターンシップによる進路意識の向上
3	角田	【国際理解教育】姉妹校との研修生相互派遣、報告書の作成による他国の理解の深化
4	名取	【言葉の力づくり】外部講師の講習会により「話す力」「書く力」「聞く力」を高め進路達成を支援
5	仙台二華	【カリキュラム開発】「IS」・「SR」における教材、カリキュラムの開発研究、指導体制及び大学との連携を構築。海外姉妹校と交流、ユネスコスクール活動に参加
6	仙台第二	【実社会を意識】現役医師、現役OB医学生による講話、病院体験実習から進学意識向上、将来医療を担う人材の育成
7	松島	【ホスピタリティマインドを学ぶ】観光関連企業、地域との交流や職場体験や地域ボランティア活動を通してのホスピタリティマインドの向上。観光基礎や総学での社会体験活動の実施
8	岩出山	【地域協働】地域題材の調査活動や課題学習、文学の学習による地域理解。職場体験や講話による社会性の向上。政宗公まつり等地域事業への参加による地域協働の実践
9	涌谷	【伝統的な芸術文化の体験と自分発見】音楽部門での三味線の体験と演奏発表、美術部門での「カマ神」の制作、書道部門での和紙作り、墨作り体験学習を通して、日本文化の理解を図る
10	登米	【魅力ある高校づくり】中学校での出前授業や公開授業による中高連携。MELT「登米講座」により地元指向性と豊かな人間性を構築。職業研究講座で同窓生を講師として実施。
11	米谷工業	【ものづくりを社会貢献に】迫支援学校の子ども達が、より良い学習活動が行えるよう教材教具の製作を行う。太鼓たたき機やボール投げ機を製作し、活動成果発表会で発表
12	石巻西	【国際交流事業】チューター制による科目横断的学習を通じた異文化理解。交流、貢献、共生の3つのテーマの講演会、ディベートの実施。他国の高校生との交流会の開催
13	志津川	【生徒の夢を実現】「夢実現ファイル」の作成による自己評価。年4回行うチャレンジテスト（スモールステップで学力を向上させる教材）「チャレンジテスト」の実施
14	田尻さくら	【伝統文化】書道展の開催、学校設定科目「茶道入門」での茶会の開催、琵琶演奏家による琵琶コンサートの開催、遠野の語り部による「民話を聞く会」の開催、伝統凧づくり教室の開催等

単元名

エネルギーの利用

高等学校 第1学年

理科 物理基礎

【単元のねらい】

○さまざまなエネルギーの特性や利用の仕方について、電気エネルギーへの変換を中心に、物理的視点から理解する。

[志教育の視点]

・私たちの生活とエネルギーの関わりを実感させ、人類の持続可能な発展という観点から将来果たすべき役割を自覚させる。

〈単元の流れ〉（6時間扱い）

1 私たちの生活が電気エネルギーによって成り立っていることを理解する。（2時間）

- ・産業構造や社会生活の変化とともに人類のエネルギー使用量が増加してきたことを理解する。
- ・他のエネルギーへの変換が容易である電気エネルギーは私たちの生活に欠かすことのできないものとなっていることを理解する。
- ・さまざまなエネルギー資源から電気エネルギーへ変換されていることを理解する。
- ・環境家計簿で日常のエネルギー消費量を調べる。

ポイント

●自分自身もエネルギーの消費者であることを自覚させ、エネルギー問題を身近な問題としてとらえさせることが大切です。

2 化石燃料エネルギーの利用と問題点について理解する。（1時間）

- ・火力発電では、化石燃料の燃焼により水を加熱して発生した高温高圧の水蒸気でタービンを回転させて発電することを理解する。
- ・化石燃料の燃焼は、温室効果の原因となる二酸化炭素や公害を引き起こす窒素酸化物、硫黄酸化物を発生させることを理解する。
- ・化石燃料の埋蔵量には限りがあることを理解する。

ポイント

●持続可能性の観点からも問題であることを理解させることが大切です。

3 原子力エネルギーの利用とリスクについて理解する。（2時間）

- ・同位体は、化学的な性質はほぼ同じであるが、中性子を吸収すると核分裂性のあるものとならないものがあることを理解する。
- ・原子力発電では、ウラン235やプルトニウム239の核分裂によって発生する熱を電気エネルギーに変換していることを理解する。
- ・放射線の種類と特性及び人体や環境への影響について理解する。

ポイント

●具体的な事例に触れながら理解を深めることが大切です。

4 再生可能エネルギーの利点や問題点を理解する。（1時間）

- ・太陽光発電、風力発電、水力発電、地熱発電、バイオマス発電などの発電方法の特徴とその問題点を理解する。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・家庭のエネルギー消費を定量的に調べさせる場を設定する。
- ・毎日の生活をどのように改善すれば省エネルギーにつながるのかを考察する場を設定する。
- ・さまざまな発電方法の特徴とその問題点をまとめる場を設定する。

は
た
す

【本時のねらい】

○現代のスポーツは国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており、その活動の代表的なものがオリンピックムーブメントであることを理解するとともに、スポーツの意義と役割について考える。

【志教育の視点】

・グローバルな社会に生きる一員としてスポーツを考えることを通して、スポーツの意義と役割及び個人の生涯にわたってのスポーツについて考えさせる。

も
と
め
る

〈学習の流れ〉

1 オリンピックムーブメントについて理解する。

(1) スポーツによる国際親善と世界平和

- ・オリピズムについて理解する。
- ・オリンピックムーブメントについて理解する。

(2) オリンピックの変貌

- ・オリンピックは、政治や経済などの社会問題と無関係ではなかったことを理解する。
- ・オリンピックは時代とともに変貌し、様々な問題を解決しながら前進していることを理解する。



2 スポーツの意義と役割を考える。

○グループごとに、次の「考えるポイント」をもとに話し合い、まとめ、発表する。

【考えるポイント】

- ・ 2020年の東京でのオリンピック・パラリンピック開催決定
- ・ 国際親善や世界平和に貢献するスポーツ

人生（自己の将来）につなげる

- ・ スポーツを「する」「みる」「支える」活動
- ・ スポーツの中で育まれる思いやりの心
- ・ 生涯にわたってのスポーツ

ポイント

●授業の最初に、オリンピックの試合後に選手が健闘を讃え合う等の映像を視聴させると効果的です。

ポイント

●2020年の東京でのオリンピック・パラリンピック開催決定に関する資料等を示しながら話し合わせると効果的です。

は
た
す

夢や志をはぐくむ手立て

・2020年にオリンピック・パラリンピックが東京で開催されることを踏まえ、グローバルな視点から国際親善や世界平和に貢献するスポーツとともに、個人の生涯にわたってのスポーツについても考えさせる場を設定する。

単元名

企業活動の基礎 ～ビジネスと企業～

高等学校 第1学年

商業 ビジネス基礎

か
か
わ
る

【本時のねらい】

○経営理念が企業活動に大きな影響を及ぼしている具体的な事例を考察し、経営理念とその重要性について理解を深める。

も
と
め
る

【志教育の視点】

・将来の職業や生き方について考え、その具体化に向けて、学習や体験活動に倫理感をもって、全力で取り組む態度を育む。

は
た
す

〈単元の流れ〉（6時間扱い）

1 東日本大震災の際に、あるテーマパークにおいて、従業員が来場者に対して どのような対応をしたか、ケース教材（別紙参照）を読む。

・状況を想像しながら読み、従業員の行動について考える。

2 従業員の来場者に対する行動の良い点について、各自でまとめる。

・各自の考えを付せんにとまとめる。

3 経営理念と従業員の行動のつながりについて、グループで討論する。

・役割（準備係、進行係、記録係、発表係）

・準備物 ホワイトボード、ペン

・グループ内で、一人ずつ従業員の行動について良い点を発表する。

・他者の意見を聞き、それを踏まえて、経営理念と従業員のつながりについて自分の考えをまとめる。

4 経営理念とは何か、またなぜ必要かを考える。

・2, 3の活動を踏まえ、経営理念について考える。

・まとめたことを、学級全体に対して発表する。

5 これまでの学校生活について考える。

・学校生活において、校訓や校則、学級目標などがあるが、これまでの生活を振り返り、自らの生き方について考える。

ポイント

●自分たちも経験した東日本大震災の際、従業員としての立場だったらということ想像させながら読ませることが大切です。

ポイント

●小グループを構成した際に、一人一人に役割を持たせる。話し合いは、進行役を中心として主体的に進めるよう支援することが大切です。

ポイント

●経営理念と従業員の行動が密接につながっていることを理解させることが大切です。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・経営理念があることで、企業を構成する人々の行動指針となっていることを理解させ、将来、社会の中でより良い生き方、自己を生かす生き方について考えを深める場とする。
- ・個人で思考するだけでなく、他者の意見を聞くことや発表を行う場を設定する。

【ケース教材】

経営理念とキャスト（従業員）の行動

報道等によると、東日本大震災の際にあるテーマパークにおいて、下記に示されているような対応が行われたとされています。

平成23年3月11日14時46分に発生した地震は、あるテーマパークにも大きな影響を及ぼしました。

地震発生直後、ゲスト（来場者）に向けて、「安全のため、座ったままでお待ちください」、「頭を守ってしゃがんでください」という緊急災害時用の園内放送が流されるとともに、パレードの列を誘導していたキャストなどが、死傷者が出たり、パニックが起きたりしないよう、冷静な行動を呼びかけました。

大地震によって首都圏では、安全確認のため鉄道などの交通機関が運行を見合わせ、道路は混雑し、帰宅できない人々が駅などにあふれました。このテーマパークを訪れていた数万人のゲストも帰宅困難となり、園内で一夜を過ごすことになりました。

多くのゲストは幾度となく発生する地震を恐れて建物の外や広場に避難し、ビニールの袋を頭にかぶったりしながら雨と寒さから身を守っていました。キャストは、お湯、段ボール、包装紙のクッション材、レインコート、カイロなど雨や寒さをしのぐもの、おみやげ用のお菓子や袋、コーヒーといった食料品などできる限りのものを無料で配布しました。ショップの棚にあった大きなぬいぐるみは、保護する防災ずきん代わりに配って歩きました。朝には、パンと温かいコーンポタージュも配布しました。

段ボールやビニール袋などは、非日常の時間と空間を提供するこのテーマパークの中で目に触れるようなことがあってはならないものです。しかし、それぞれのキャストの判断で、園内にあるありとあらゆるものがゲストに無償で提供されました。

このテーマパークでは、パーク全体で年間180回に及ぶ避難訓練が行われていますが、「商品であるぬいぐるみを配布してもよい」といった指示はありません。この地震の際には、キャストは自ら考え行動しました。

（経営理念）

この会社の経営理念の中では、Safety（安全）、Courtesy（礼儀正しさ）、Show（ショー）Efficiency（効率）という4つの行動基準を設けています。

この4つの行動基準を、それぞれの頭文字をとって“SCSE”と呼んでおり、これらは優先順位の高い順に並んでいます。“SCSE”の優先順位を守り行動することによって、ゲストにハピネス（幸福感）を提供することができると考えています。

単元名

H R 生活の充実を目指した
学級目標を立てよう

高等学校 全学年

特別活動 (L H R)

か
か
わ
る

【本時のねらい】

○学級全員で学級目標を決めることにより一人一人の所属意識を高め、望ましい人間関係をつくりながら、より良い学級を目指していこうとする。

も
と
め
る

【志教育の視点】

・一人一人が自分の果たすべき役割を自覚し責任を果たしながら、他者と場に合った適切なコミュニケーションを図ることができるようにする。

は
た
す

〈本時の流れ〉

- 1 学級担任の思い、望ましい姿を伝える。
 - ・生徒一人一人にどのように成長してもらいたいかを伝える。
- 2 まず一人一人で学級目標を考える。
 - ・一人2枚の付せんを準備し、1枚に学級目標を記入する。
 - ・もう1枚にその理由を記入する。
- 3 小グループで学級目標を話し合う。
 - ・4～5人の小グループとなり、準備係、進行係、記録係、発表係の役割を決める。
 - ・一人ずつ、目標とその理由を発表し、発表し終わったら、付せんを重ねて用紙(A3用紙)に貼る。
 - ・似ている内容の付せんをまとめる。
 - ・グループで一つの目標にまとめる(話し合いでまとめさせる)。
- 4 学級全体で学級目標を決める。※司会：学級委員
 - ・各グループの発表係が、話し合った学級目標を発表する。
 - ・記録係は発表した目標を黒板に書く。
 - ・共通する内容を探す。
 - ・学級全体で一つの目標にまとめる。
 - ・決まった目標を黒板に書く。
 - ・学級委員が決まった目標を発表する。
- 5 学級目標達成のために必要な、個人目標を考える。
- 6 個人目標を用紙に書く。

ポイント

●ガイダンスの充実を図り、生徒に今後の生活への見通しをもたせ、教師の押しつけにならないよう配慮しながら伝えることが大切です。

ポイント

●小グループを構成した際に、一人一人に役割をもたせる。話し合いは、進行役を中心として主体的に進めるよう支援することが大切です。

ポイント

●学級全員が話し合いの内容を共有し、学級目標を話し合いで決定するよう支援することが大切です。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・学級担任は、学校生活を送る上で大切にしてもらいたい事柄を全体に伝える。
- ・生徒一人一人に役割を持たせ、全員が関わりながら話し合い活動を行うようにする。その際、意見を否定しない、認める、ほめる、うなずく等、他者の意見を大切にする。

6

授業や諸活動での志教育の参考事例

特別支援

活動名

感謝の気持ちを伝えるために
プレゼントを作ろう

小学校 特別支援学級
生活単元学習

か
か
わ
る

【単元のねらい】

- お世話になった先生や友達に感謝の気持ちを伝えることができる。
- 自分の得意なことを生かし、学級の友達と協力してプレゼントを作ることができる。

【志教育の視点】

- ・6年間の学校生活を振り返り、いろいろな人にお世話になったことに気付かせる。
- ・自分ができる作業を心を込めて行い、協力してプレゼントを完成させることで、自分のよさや友達によさに気付かせる。

も
と
め
る

〈単元の流れ〉（18時間扱い）

1 「プレゼント作りの計画を立てよう」（1時間）

- ・お世話になった人や友達との思い出を話し合う。
- ・感謝の気持ちを表す方法を話し合う。

ポイント

●今までの活動の写真やビデオを見せることで、いろいろな人や友達の支えがあったことに気付かせ、感謝の気持ちをもたせることが大切です。

2 「材料の買い物に行こう」（3時間）

- ・プレゼント（ポケットティッシュカバー）を作るための材料や作り方を調べ、買い物が必要な数や量を計算する。
- ・相手が喜ぶ様子を思い描きながら材料を選び、買い物をする。

3 「プレゼント（ポケットティッシュカバー）を作ろう」（10時間）

- ・自分の得意な作業を分担し、協力してプレゼントを作る。

ポイント

●児童の作業技能を考えたプレゼントを提案し、意欲をもって作業に取り組めるように励ますことが大切です。

4 「メッセージカードを書こう」（2時間）

- ・感謝の気持ちをカードに書く。

5 「感謝の気持ちを伝えよう」（2時間）

- ・プレゼントとメッセージカードを配りながら感謝の気持ちを伝えたり、会話をしたりする。

は
た
す

夢や志をはぐくむ手立て

- ・自分たちの周りの人の支えやよさに気づき、感謝の気持ちを伝える場の設定を工夫する。

単元名

中学校を紹介しよう（中学校見学会）

中学校 特別支援学級

生活単元学習

か
か
わ
る

【単元のねらい】

○小学校特別支援学級の児童や保護者を対象とした中学校見学会を通し、相手のことを考え、進んで自分の役割を果たそうとする意欲をもつ。

[志教育の視点]

- ・相手を尊重し、よりよいコミュニケーションを図ることができるようにする。
- ・自己の役割や責任を果たすことで、人のために役立つ喜びを体験させる。

は
た
す

〈単元の流れ〉（9時間扱い）

1 「見学会で紹介しよう」（1時間）

- ・見学会全体の目的や日程を知る。
- ・後輩にどんなことを紹介したいか考える。

ポイント

●誰が見学に来るかを具体的にイメージさせ、生徒の主体的なアイデアを引き出すことが大切です。

2 「準備をしよう」（4時間）

- ・案内したい場所や紹介したい活動を相談し、分担する。
- ・分担に従って案内や説明の準備や練習をする。
- ・案内状を作って小学校に送る。

ポイント

●相手への分かりやすい伝え方に気付け、実際の行動や場所、具体物、写真などを用いた説明（案内）を考えさせることが大切です。

3 「中学校を紹介しよう」（中学校見学会：当日）（3時間）

- ・自分の役割を果たし、落ち着いて案内や説明をする。
- ・小学校の後輩とのコミュニケーションを楽しむ。

ポイント

●小学校の担任やコーディネーターと連携し、事前に情報交換や流れの確認をしておくことが大切です。

4 「反省会をしよう」（1時間）

- ・見学会を振り返り、がんばった点や良かったことを話し合う。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・生徒が自信を持って自己表現できる場面や活動を積極的に生かす。
- ・地域の小学生のために自分が役立ったという意識を高める。

単元名

桜の枝ではし置きを作ろう

中学校 全学年

作業学習（木工班）

か
か
わ
る

【単元のねらい】

- 自分の仕事の内容が分かり、手順に見通しをもって取り組む。
- 友達や教師と頑張りを認め合いながら、共同作業をする楽しさを味わう。
- 自分の役割に集中して、安全に注意しながら、作業に取り組む。

も
と
め
る

【志教育の視点】

- ・自分のやりたいことを選択し、進んで取り組む力を育てる。
- ・教師や友達、道具に自分から関わろうとする気持ちを育てる。
- ・自分の役割を果たそうとする態度・意欲を引き出す。

は
た
す

〈単元の流れ〉（66時間扱い）

1 「はし置きの作り方を知ろう」（2時間）

- ・枝からはし置きができるまでの手順を見て、道具の使い方や全体の手順に見通しをもつ。

ポイント

●手順表や作業内容の写真を提示することで、生徒が仕事の内容を理解し、見通しをもって、意欲的に取り組めるようになります。【もとめる】

2 「自分の仕事を果たそう」（56時間）

- ・新しい仲間と、「のこぎり」、「粗目のやすり」、「細目のやすり」、「テープ貼り」、「ニス塗り」の各班に分かれ、協力して、はし置き作りに取り組む。

ポイント

●自分の役割を知り、自分の作業が次の人の役に立っていることを理解させることで、直接的な関わりではなく、製品を通しての関わりもあることを知らせることが大切です。【かかわる】

3 「たくさんの方を買ってもらおう」（6時間）

- ・メッセージカード作り、袋詰め、ポスター作りなど、販売の準備をする。
- ・バザーで、販売をする。

4 「売り上げを計算しよう」（2時間）

- ・売れた個数、売り上げの金額を知り、頑張ったことを発表し合う。
- ・購入者の感想などを聞くことで、次の製品作りの意欲とする。

ポイント

●自分の作った物が、人の役に立っていることを知り、役立つ喜びを味わわせることが大切です。【はたす】

夢や志をはぐくむ手立て

- ・自分でやりたいことを選択し【もとめる】、友達の頑張りを認めながら【かかわる】、自分の役割に最後まで取り組む【はたす】力を身に付けるために、単元を【もとめる】【かかわる】【はたす】のサイクルで構成する。

単元名

みんなで分けよう

高等部 全学年

数 学 科

か
か
わ
る

【単元のねらい】

- 「全体を等分する」ことの意味が分かり、2等分、4等分、8等分することができる。
- およそ同じ形に分けるための方法を考え、いろいろなものを目分量で2つ、4つ、8つに分けることができる。

も
と
め
る

【志教育の視点】

- ・自分の意見を伝えたり友達の意見を聞いたりしながら、協力して課題解決に取り組めるようになる。
- ・学習したことを日常生活で取り組んでみようという意欲をもたせる。

は
た
す

〈単元の流れ〉（6時間扱い）

1 「仲良く分けよう」（1時間）

- 数えたり測定したりして、飲み物や食べ物を同じ数や量に分ける。
- 「等分する」という意味を考える。

ポイント

●教師からやり方を教えるだけではなく、友達同士で相談しながら方法を見出すよう声掛けすることが大切です。

2 「等分しよう」（1時間）

- 目盛り付き調理用具を活用して、長いもの（ロールケーキなど）や丸いもの（バウムクーヘンなど）を等分する。
- 等分されたものと目分量で分けられたものを比べ、違いを考える。

3 「2等分、4等分、8等分しよう」（1時間）

- いろいろな形の紙を2等分、4等分、8等分する。

ポイント

●生徒が日常経験するような場面を想定し、取り組むことで、実生活で生かすイメージをもたせることが大切です。

4 「8つに分けよう」（1時間）

- ロールケーキやバウムクーヘン、おひつに入ったご飯など、長いものや丸いものを目分量で8つに分ける。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・友達と協力して課題解決を図る気持ちを高めるために、個々の習熟度やねらいを踏まえた小グループを編成する。
- ・学習したことを日常生活で生かそうとする意識を高めるために、日常生活で使用する物を教材として活用したり、日常生活を想定した場面を取り入れたりする。

単元名

学校祭に向けて製品作りをがんばろう

高等部 全学年

作業学習（陶芸班）

か
か
わ
る

【単元のねらい】

- 学校祭で販売することを意識し、生産性や質の良い（形や模様が整った）製品作りに取り組む。
- 販売に向けての製品作りから販売までをすることにより、流通の仕組みを知る。

【志教育の視点】

- ・大人との関わりや丁寧な言い方、場に応じた受け答えをしようとする態度を育む。
- ・製品の質の良さについて意識させ、質の良い製品を作ろうとする意欲を高める。
- ・準備、作業、片付けを通して、自分の役割を果たす充実感を味わえるようにする。

も
と
め
る

〈学習の流れ〉

1 「オリエンテーション」（1時間）

- 本焼きした製品や昨年の販売の様子を映像で見せながら、学校祭で販売する製品を確認する。

ポイント

- 責任をもって行えるよう、能力に合わせた作業を分担し、分担を明確に伝えることが大切です。

2 「分かれて作業を進めよう」（26時間）

- 泥しょうの流し込みによる花瓶やどんぶり作り、たたらによる植木鉢や皿作りに分かれて作業をする。

ポイント

- 教師への報告や販売での受け答えの練習を通して、大人との関わり方や丁寧な言い方を具体的に指導することが大切です。

3 「素焼きと本焼きをしよう」（13時間）

- 仕上げを行い、大きさや形で分けて釜詰めしやすいように準備する。

4 「販売に向けて準備をしよう」（9時間）

- 本焼きした器を窯出しして、底に付着した釉薬を削る。
- ラッピングや値札付け、挨拶や受け答えの練習をする。

ポイント

- 客の意見や要望を生かした製品を作る意識をもたせるような働きかけが大切です。

5 「ご苦労さん会をしよう」（2時間）

- 販売数と売上金額を計算して確認する。
- 回収したアンケートカードを読み、客の意見や要望を確認する。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・自分の仕事に責任をもつことや周囲と協力して取り組むことへの意識を高めるため、分業制の作業を設定する。
- ・社会の一員としての自覚や社会との関わりへの意識を育むため、外部への販売の場を設定したり、買ってくれた客の意見や要望を集約する方法を工夫したりする。

は
た
す

単元名

卒園記念品を作製して納品しよう

高等部

作業学習（木工班）

か
か
わ
る

【単元のねらい】

○地域の幼稚園から依頼を受けた卒園記念品の作製・納品を通して、職業生活に必要な能力や実践的な態度を育てるとともに、働く喜びを味わう。

【志教育の視点】

- ・作業工程を分担することで、果たすべき自分の役割を考えさせながら、仲間と協力して作業に取り組ませる。
- ・ゲストティーチャー（大工職人）の積極的な活用や、納品先の園児との交流会を通して、より良い製品を仕上げようとする意欲や目的意識を高める。

は
た
す

〈単元の流れ〉（86時間扱い）

1 ゲストティーチャーによる授業（2時間）

- ・大工職人から卒園記念品となるペン立ての見本の提示や、材料の提供を受ける。

2 納品先の幼稚園との交流会（2時間）

- ・幼稚園児を招き、納品するペン立ての紹介や作業の様子を見学してもらう。また、生徒が園児全員に名前と好きな色をインタビューし、交流を図る。さらに、園児の顔写真を撮影させ、作業室に掲示する。

3 ペン立ての作製（80時間）

- ・作業工程を分担し、ペン立てを作製する。ペン立てのデザインとして、園児の好きな色でイニシャルと仕切り板を入れることで個に合わせたデザインにする。

4 幼稚園へ卒園記念品の納品（2時間）

- ・幼稚園を訪問し、ペン立ての作業工程等を説明した後、一人一人にペン立てを手渡しで納品する。

ポイント

●ゲストティーチャーの活用や園児との交流会、作業班内の打ち合わせ等の場面を設定し、様々な人とのかかわりを意識できるようにします。

ポイント

●園児の反応や感想を直接感じることができるよう、手渡しで納品します。自己の役割を果たすことによって自己有用感を高めます。

夢や志をはぐくむ手立て

- ・果たすべき自分の役割を考えさせる手立てとして、作業工程の分担ごとに小グループを構成し、生徒主体の打合せを毎回設定する。その際、各グループで作業の進捗状況に応じてその日の段取りを組ませる。必要に応じて他のグループを手伝うなどの調整についても考えさせる。また、担当以外の作業を手伝う際には、生徒間で作業内容を教える場面を設定する。